

氏名 花山 宣久
授与した学位 博士
専攻分野の名称 医学
学位授与番号 博乙第 4388 号
学位授与の日付 平成24年12月31日
学位授与の要件 博士の学位論文提出者
(学位規則第4条第2項該当)

学位論文題目 Losartan/Hydrochlorothiazide Combination Therapy Surpasses High-dose Angiotensin Receptor Blocker in the Reduction of Morning Home Blood Pressure in Patients with Morning Hypertension
(ロサルタン/ヒドロクロロチアジドは高用量ARBより早朝高血圧患者の早朝家庭血圧の降圧において優れる)

論文審査委員 教授 千堂 年昭 教授 光延 文裕 准教授 草野 研吾

学位論文内容の要旨

アンジオテンシン受容体拮抗薬(ARB)は高血圧治療における第一選択薬とされているが、常用量で十分な降圧を達成できないことも多く、セカンドラインの降圧薬が重要になっている。本研究は、ARBとサイアザイド利尿薬との併用療法と高用量ARBとで、早朝血圧における降圧効果を比較検討した。常用量のARBを含む治療で早朝収縮期血圧が135mmHg以上の高血圧患者48名が登録され、ロサルタン/ヒドロクロロチアジド群(26名)と高用量ARB群(22名)に割り付けされた。観察期間は3ヵ月間で、その間の降圧薬の変更は行わなかった。3ヵ月後の早朝収縮期血圧・早朝拡張期血圧の低下度は、ロサルタン/ヒドロクロロチアジド群で有意に大きかった(いずれも $p < 0.05$)。有害事象はロサルタン/ヒドロクロロチアジド群で23.1%、高用量ARB群で9.1%だったが、両群間に有意差は認めなかった。本研究において、ロサルタン/ヒドロクロロチアジドは、常用量ARBでコントロール不十分な早朝高血圧患者の早朝血圧の降圧において、高用量ARBより優れていた。

論文審査結果の要旨

本研究は、アンジオテンシンII受容体拮抗薬(ARB)、ロサルタンとサイアザイド系利尿薬、ヒドロクロロチアジドの併用療法と高用量ARBを早朝収縮期血圧の降圧効果を比較した研究成果である。

その結果、3ヶ月後の早期収縮期血圧・早期拡張期血圧の低下度は、併用群で有意に大きく、有害事象は併用群で23.1%、高用量ARB群で9.1%で有意差は認めていない。

高血圧の中でも特に早朝高血圧は心血管イベントのリスクが高い事がわかっており、常用量ARBにて早朝高血圧のコントロールが不良な高血圧患者において、ARBとサイアザイド系利尿薬の組み合わせが優れていることを示した。本研究成果はARB単一で降圧目標の達成が困難な症例に対して、今後の治療戦略の指針に繋がるものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。